

第1回 みどりのまちづくり賞

OSAKA LANDSCAPE AWARD

大阪ランドスケープ賞

作品集

主催

大阪府
財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

大阪府では“美しく季節感のあるみどりの中で、人と人、人と自然のつながりが生まれ、さわやかな風を感じる快適なまち”「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現を目指しています。

この目標を実現するためには、大阪で活躍されている府民の皆様や企業の皆様と、行政とが一体となって取り組む必要があります。大阪府では、住宅や企業敷地などの民有地と、道路などの公共施設が一体となって美しい緑化がなされると、相乗的により美しく快適なまちづくりができることに着目しています。このようなセミパブリック空間を多く生み出し、みどりで魅力的にしていこうと、さらにそれらを実現する過程をとおし多くの人々がつながり、笑顔になることが大切だと考えています。

この賞は、みどりのまちづくりに貢献する“まちが美しくなるみどりづくり”“まちが笑顔になるみどりづくり”に取り組まれた方々を表彰し、こうした取り組みが大阪府全体に広がっていくことで、「みどりの風を感じる大都市・大阪」が実現されることを目的とします。

総 評



審査委員長
増田 昇

「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現を目指して、各種の緑化施策が展開される中で、その担い手である府民や事業者を顕彰する目的で「みどりのまちづくり賞」が大阪府と(社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部で主催されることとなった。

賞は地域コミュニティへの貢献や活動の継続性などを評価し「まちが笑顔になるみどりづくり」に寄与するランドスケープマネジメント部門と、デザイン性や空間の美しさなどを評価し「まちが美しくなるみどりづくり」に寄与するランドスケープデザイン部門の2部門からなる。初年時であった本年では、マネジメント部門に39件、デザイン部門に34件の応募があり、資格要件を満たす37件と27件を審査の対象物件とした。1次審査は現地写真や図面も含めた応募書類をもとに書類審査し、11件と10件を2次審査対象物件として選出した。2次審査では2日間に渡る現地審査を実施し、その後の最終審査では委員間の活発な論議を経て各賞を選出した。

最優秀賞である知事賞はマネジメント部門では自然の保護と美しいまちづくりを兼ね備えた活動である高槻市内の「新川姫蛭と花を守る会」、デザイン部門では大大阪の歴史と風格を継承しつつ新たな都市での生活スタイルを実現させようとした「中之島公園」を選出した。マネジメント部門は応募されたいずれの活動も地域コミュニティ活性化への貢献が高く、まちに笑顔が戻ってくるような活動で高く評価された中で、年々活動が充実している堺市内の「中之町フラワーウェーブ」、千里丘陵の原風景の再生に取り組んでいる豊中市内の「千里竹の会」、活動の歴史が古く町域全体に展開している「島本町緑と花いっぱい会」を受賞物件とした。デザイン部門は若干評価が分かれたものの、いずれも集合住宅地のランドスケープの形成に取り組まれた「ウェリス上本町ローレルタワー」、「シャレール東豊中」、「サンマーク大日」を受賞物件とするとともに戦前長屋のコンバージョンの先駆的事例である「からほり倶楽部 惣一長屋草屋根一」を特別賞とした。

本賞は本年からスタートをきったところであるが、大都市大阪が重層する地歴を活かし、住み続けたいまちであると同時に訪れたいまちとなるよう、本賞が回を重ねることによって「ランドスケープ」の視点から貢献できるよう大いに期待したい。

中之島公園

所在地:大阪市北区中之島

事業者 大阪市ゆとりとみどり振興局
設計者 株式会社現代ランドスケープ
施行者 -

中之島公園の再整備計画にあたっては、堂島川と土佐堀川に囲まれた水上に浮かぶ公園のような印象を抱けるように、船の上から楽しめるシーンの展開や水際での夕涼み、散策など、中州を楽しめる都市の風情の復活を目指しました。大都市大阪の厚みと風格の向上と継承のために、橋と公園、公会堂と水辺、剣先の場所性の再生、公会堂から大阪城への意識の蘇生など、新しさに埋もれがちな歴史性をあぶり出す環境デザイ

ンを試みました。誰もが行ってみたいと思う空間性と人を引き付ける要素を整えた水辺の魅力的な生活の場を設えることにより、解放感や安心感、きらめく水、生き生きとした緑を感じ、テラスでの食事や犬の散歩、バラの観賞や毎日のウォーキングなどが楽しめる、新しい中之島の生活スタイルが形成されることを期待しています。



講評

中之島公園は明治24年に開設された大阪市営のもっとも古い都市公園であるが、「水の都大阪の再生」に向けた取り組みの一環として再整備され、平成21年の竣工後、毎年「水都大阪」のメイン会場ともなっている。

「中央公会堂」と「大阪城」を結ぶケヤキ並木による中之島景観軸の形成や剣先の場所性の再生、公園上空に掛かる橋梁景観の活用、バラ園や巨樹の継承など、大大阪の歴史の厚みを継承しつつ風格の向上に取り組まれている。また、中州という立地特性を活かして、水辺への連続性や開放感を高め、水上公園としての景観づくりとともに船上からのシーン展開もうまく意識されている。開放的な芝生広場を提供することによって都市イベントの会場としての利用とともに水際での夕涼みや散策、おしゃれなランチやディナーの場など、新たな都市の生活スタイルが実現できる場づくりにも取り組まれており、ランドスケープデザイン部門の知事賞に値するものと評価された。

(審査委員長 増田昇)

新川姫蛭と花を守る会

所在地:高槻市南庄所町
活動者 新川姫蛭と花を守る会

高槻市の中で一番美しいと言われている芥川の桜堤や、北摂の山々と生駒山系、太陽の塔まで望める風景を、ヒメボタルの棲める自然環境とともに大切にしていきたいと考えて行っている活動は、遊歩道の花植えや芥川河川敷のゴミ拾い、そして地域の財産であるヒメボタルの保護活動を中心に、地域連合や子供会と一緒に焼き芋大会やヒメボタル鑑賞会、灯籠づくり等へと広がってきました。

現在のメンバーは25名、今後も周辺地域の方々との親睦や人との関わりを大切にし、何よりもみんなの老後の生きがいや元気づくりのために活動を続け、高槻市全体に緑化や花とホタルのまちづくりが広がり、町おこしにつながることを期待しています。



講評

本活動は、大阪府内のJR高槻駅より南へ徒歩15分、一級河川芥川に沿って南北に流れる新川沿いの遊歩道約600mの区間において、平成18年6月から陸生のヒメボタルの保護と花づくりに取り組まれている活動である。30年前に地元自治会によって植えられた150本のソメイシノの足元に、シバザクラを中心に色とりどりの草花が植えられており、春の芥川の土手からの風景は道行く人々に感動を与えている。また、5月中旬にはヒメボタルの鑑賞会も催されるとともにヒメボタルの時期が過ぎるとピオトープにはハスが咲くなど一年を通じて人々の目を楽しませている。今では、高槻市内で最も美しいお花見の名所となるなど、美しい景観づくりとともにヒメボタルの生息調査や保全活動にも積極的に取り組まれており、自然の保護と美しいまちづくりを兼ね備えた活動であり、ランドスケープマネジメント部門の知事賞に値するものと評価された。

(審査委員長 増田 昇)

ウェリス上本町ローレルタワー

所在地:大阪市天王寺区上本町

事業主 NTT都市開発株式会社
近鉄不動産株式会社
設計者 鳳コンサルタント株式会社環境デザイン研究所
施行者 清水建設株式会社



上町台地という環境特性から、台地と大地、名水と湧水をコンセプトに、パブリックとプライベート空間の両立を目指し、都市型超高層住宅に相応しいランドスケープデザインの展開を図っています。西側のロビー・フロント・ガーデンは、台地を表現する緑のマウンドと湧水を表す水盤を用いて、周辺の喧騒と視線を遮る緩やかなバリアを形成しつつ、街路景観に開かれた公開空地の水・緑として、エントランスホールと屋外空間が一体となったデザインを目指しています。南側の、緑のマウンドを切り込んだヒル・サイド・テラスには、実のなるポンカンのプランターや草花を配置し、季節を感じて憩えるガーデンテラスとしています。

講評

都心でのマンション計画で限られた敷地の狭さを逆手にとり、緑のストックの改善、緑化の新しい形態を提示している点、壁面緑化の技術、アイデアを駆使し、工夫している所が評価されました。また、隣接する公園、歩道などの連動性、一体的整備管理がなされていることも本年度の審査の基準に十分、値するものでありました。

以上のように、デザインの斬新性などは評価されましたが、「街なみへの広がりや貢献度、黒竹の垣根支柱のデザインなどにもうひと工夫ほしい」と云った声も委員の諸先生方からは多く聞かれました。

皆様の今後の益々のご活躍を期待しています。

(審査委員 二見恵美子)

ランドスケープマネジメント部門 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部長賞

中之町フラワーウェーブ

「美しい花と緑があふれる公園」「みんなが集う花の公園」づくりに取り組んできた活動は、花植え、花ガラ摘み、除草、水やり、剪定から始まり、最近では地域の方々と一緒に楽しむケヤキの落ち葉を使った腐葉土作りや押し花を使ったしおり作り、寄せ植え講習会等へと発展しています。

地域の方々へ理解していただき、受け入れていただけた

所在地:堺市堺区中之町西
活動者 中之町フラワーウェーブ

こと、メンバーのみんなが地域を花いっぱいにして、公園を地域のふれあいの場にしよう、安らぎと憩いに満ちた公園にしようという気持ちを常に持って取り組んできたので活動を長く続けてこれました。これからもみんな楽しんでながら、継続・発展的に取り組んでいきたいと思ひます。

講評

地域の人々の「もてなしの花作りの心」で、年を重ねる人々が憩い楽しめる公園にした好事例です。

自身の現地審査選考基準は、①日常的に維持管理が行われているか。②多くの人々に愛され利用されているか。③季節毎の多様な花の植え替えが行われ美しいか。の三点でした。中之町フラワーウェーブのメンバーの方々水撒き、花柄摘み、除草をされ、多くのお年寄りがパーゴラの下で楽しそうに談笑され、近くの保育園児が公園に遊びに来たのに出会いました。維持管理は日常の管理から一年間を通しての管理成果で、年毎に違います。選考主旨は、緑豊かで快適な地域の景観づくりに特に寄与しているもの。そして、ランドスケープマネジメント部門の審査のポイントは、空間の美しさに特に優れた案件で、中之町フラワーウェーブの活動はこれらの主旨に合致し高く評価されました。

「もてなしの花作りの心」を是非とも子供達に受けついで頂きたいと願っています。

(審査委員 福原成雄)



竹林整備活動

所在地:豊中市新千里東町他
活動者 千里竹の会

私たちは、「竹藪を竹林に」を合言葉に、千里ニュータウンに残る市民の貴重な財産でもある竹林を保存し、緑の環境を維持するための活動を行っています。枯れ竹や倒れ竹の除去、間伐、灌木の伐採などの竹林整備とともに、竹細工教室の開催や、地域の幼稚園への七夕用の竹の提供、市のイベントへの竹炭、竹細工品を提供しての参加、府立北千里高校での竹炭焼きへの協力参

加、吹田市役所の門松作りなど、竹材を通じて地域コミュニティとの関わりは広がっています。

今後も竹林の景観について一緒に考える仲間を増やし、参加者には元気に活動できる場を提供し、健康の維持と精神的な充足を感じてもらえるような活動を目指していきます。

講評

千里竹の会は千里東町公園内の竹林と桃山台周辺の公園や緑地における竹林の整備を主として活動されているボランティア団体です。

薄日が差し込む竹林になるよう間伐等を行い、切った竹を周囲の垣根や竹林内で土塁止めに整理整頓し、ごみ清掃もおこなわれています。竹林整備の他、タケノコ掘りや竹細工づくりなど市のイベント協力や、竹炭焼きや門松づくりなど地域のコミュニティへも積極的に関わられています。

各エリア毎週1~2回と活動を頻繁に行われており、合計面積約66,000㎡という広範囲を、全体的に美しく管理されているのには敬服いたします。千里ニュータウンの竹林は千里の原風景である竹林と都市との共存を考えて残されたものであり、それを里山的に保全する本活動は「人と自然との共生」という花博の理念に合致したものといたします。
(審査委員 當内 匡)



ランドスケープマネジメント部門
大阪府都市緑化フェア実行委員会委員長賞

みんなで育てよう 緑と花いっぱいの島本町

所在地:三島郡島本町
活動者 島本町緑と花いっぱいの会



「みんなで育てよう緑と花いっぱいの島本町」を合言葉に、役場周辺、阪急水無瀬駅、浮島、JR島本駅周辺などを中心とする活動によって、雑草が生え放置自転車の吹き溜まりになっていた駅前の土地が美しい花壇に生まれ変わり、街の環境改善にも貢献しています。

また、年1回発行する「緑と花の会だより」は、広く町内の皆様に緑化活動、美化活動と呼び掛ける啓発にも役立っています。

最近、町の遊休地を借り受けて野生種の秋の七草を咲かせる活動で環境省指定準絶滅危惧種のフジバカマの保護に努めたり、作業で出る花ガラや雑草を堆肥化して再利用する「エコ堆肥」にも取り組んでいます。

講評

緑と花いっぱいの会による取り組みは昭和56年から始まり30年にわたる。その取り組みは継続してきた時間の長さだけでなく、参加者の広がりや行政、企業との連携、そして育苗、子どもたちとの交流、花看板づくり、広報、環境保護など多様な活動への展開へとつながっている点が特徴的だといえる。特に、駅前、バス停などまちの公共空間にうるおいをもたらすとともに、放置自転車問題などまちの課題解決にも積極的に取り組んでいる点のみどりのまちづくりという観点からも高く評価される。

30年におよぶ活動の継続と発展は、個人個人のやる気や努力とともに、組織としてのマネジメントが機能していなければならぬものであり、府内で活動している数多くのみどりのまちづくりの模範であり、参考となる点を数多く有しており、授賞に値する。今後も50年、100年と活動が継続し、広がり、発展していくことを大いに期待したい。
(審査委員 嘉名光市)

第1回 大阪ランドスケープ賞(みどりのまちづくり賞)記録

応募数

ランドスケープデザイン部門 37件

ランドスケープマネジメント部門 27件

スケジュール

募集:平成23年 4月1日 から 7月15日

第一次審査(書類審査):平成23年 8月23日

第二次審査(現地審査):平成23年 9月14日、15日

表彰式:平成23年 10月16日

(第27回大阪府都市緑化フェア会場にて)

審査委員

審査委員長

増田 昇 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授)

審査委員

嘉名 光市 (大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 准教授)

當内 匡 ((株)庭樹園 代表取締役)

弘本 由香里 (大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員)

福原 成雄 (大阪芸術大学環境デザイン科 教授)

二見 恵美子 (京都市立女子大学客員教授、ランドスケープアーキテクト)

シャレール東豊中

所在地:豊中市東豊中

事業主 独立行政法人都市再生機構西日本支社
設計者 株式会社ヘッズ

再整備にあたっては、当団地が如何にして街に寄与できるかという視点に立って計画を進めました。

団地空間の開放性と道路空間との連続性を高めるため、生垣等の植栽や道沿の画一的な遮蔽施設は一切用いないこととし、団地景観が周辺の街の賑わいに調和することを目指しました。街路に面した法面は街の景観に対して魅力的なものでなければならぬと考え、起伏の多い当地によく見られる石積みをモチーフとしたロックガーデンを植栽基盤とし、エントランスやフットパス、シンボルであるメタセコイアの並木の足元などを中心に、約150品種に及ぶ低木や地被類を植栽することによって、街の賑わいに華やかな表情を与えるように努めています。



講評

団地建替に伴い、バス道路に接した外周整備が行われ、団地入口正面階段を中心に既存樹木のメタセコイア、斜面地を活かし、地域の石積をヒントに御影切石による土留め風ロックガーデンが作られていました。

自身の現地審査選考基準は、①その場を活かしたデザインが行われ美しく魅力的な空間になっているか。②素材の選定が適切か。③多くの人々に親しまれているか。の三点でした。大阪府都市緑化フェア実行委員会委員長賞の選考主旨は、人々の都市緑化に関する意識の高揚や普及を図り、花と緑あふれる街づくりの推進に寄与しているもの。そして、審査のポイントは、公開性に特に優れた案件で、コンセプトにされた「生活空間の開放性と道路空間の連続性」「多彩な緑の育成」等の内容が評価されました。

大変残念なのは、団地内部整備との整合性、石の選定、組方に違和感を感じた事です。今後の維持管理によりさらに魅力ある団地になることを期待しています。
(審査委員 福原成雄)

サンマークスだいいち

所在地:守口市大日東町

事業主 三洋ホームズ株式会社・東急不動産株式会社
設計・設計者 株式会社竹中工務店

サンマークスだいいちには、国道1号・府道京都守口線・大阪中央環状線が交差する大日交差点周辺地区にあります。この地区は地下鉄大日駅を中心に商業・業務・居住機能が高度に集積し、守口市の都市核に位置づけられています。

受賞対象は地上40階の高層マンションが建つエリアのランドスケープです。高層棟の足元は、市の地区計画により確保された歩道状空地や総合設計制度による公開空地、提供公園や街路樹がオープンスペースと緑を提供し、ゆとりある空間の形成を図っています。特に、外周道路と住宅敷地とが一体となった植栽地計画を行うことにより、マンション内の緑を付近の住民の方々も享受できる環境を目指しています。



講評

幹線道路交差点と地下鉄駅前という都市の要衝にあった工場跡地の複合再開発における府下でも有数の大規模マンション開発によって生み出されたランドスケープである。かつて工場であった広大な土地を一変させ、開放感ある風景をつくりだした点が評価される。総合設計制度によって生み出された公開空地の配置は、多くの人が来訪する都市核としての拠点性を考慮し、積極的にまちに開き、まちとの関係をつくらうとする姿勢が感じられる。また、駅前拠点の高容積の開発でありながら、広がりある空間を生み出すことに成功し、提供公園や屋上緑化などと相乗的に空間のうるおいや広がりを出し、周辺環境の向上にも気を配っている点も評価される。

今後、継続的かつ熱心に維持管理に取り組み、みどりが成長すれば、時間の経過とともに質の高い空間へと成長するとともに、このまちで暮らす人々の記憶に刻み込まれるような大切な風景となっていくことが期待される。
(審査委員 嘉名光市)

ランドスケープデザイン部門 特別賞

からほり倶楽部 惣 一長屋草屋根

所在地:大阪市中央区瓦屋町

事業主 からほり倶楽部・山根エンタープライズ株式会社
設計・施行者 有限会社和惣



からほり倶楽部「惣」は、職住が混在し昔ながらの長屋なども残る空堀にある複合商業施設です。計画では、長屋を複合商業施設として再生する際に極小スペースの緑化がキーワードとなりましたが、角地でもなければ前面道路は坂道になっている敷地に余裕が全くなかったため、残された空間である屋上に着目し、前面から見ても緑を感じることでできる屋上緑化を試みました。建物と調和した草屋根は、季節によっては花が咲き、蝶などが飛来する限りなく自然な屋上緑化となっています。

講評

長い都市居住の歴史を有する大阪を代表する都市景観の一つが、長屋で構成された街並みである。都心部にありながら震災や開発を免れ、今日まで生き残ってきた長屋を、貴重な地域資源として再評価し、活用する動きが近年活発化している。空堀商店街界隈に立地する「からほり倶楽部 惣」は、長屋再生の可能性を示した先導的なプロジェクトだが、その象徴性を高めているのが、ユニークな「長屋草屋根」の存在である。新旧の文化の融合と地域の持続的発展を志向する長屋再生の物語に、ランドスケープデザイナーが参画していくことによって、人と建物と地域のコミュニケーションの幅を広げ、新たな命を吹き込んでいる点が評価できる。秋には彼岸花が咲くなど、季節ごとに移り変わっていく植物相は、高密度な市街地の中で、ほっと心を和ませることのできる緑の景観を生み出し、地域のストック活用と一体で展開する緑化の新しい姿と可能性を物語っている。(審査委員 弘本由香里)

後 援

大阪都市公園協議会／社団法人日本都市計画学会関西支部
社団法人日本造園学会関西支部／社団法人都市住宅学会関西支部
社団法人日本造園修景協会阪奈和支部／社団法人日本造園建設業協会大阪府支部
社団法人日本造園組合連合会大阪府支部／阪神造園建設業協同組合
社団法人大阪造園業協会／社団法人大阪市造園業協会

OSAKA LANDSCAPE AWARD

大阪ランドスケープ賞 事務局

〒540-8570 大阪市中央区大手前二丁目一番二十二号
大阪府 都市整備部 公園課 計画グループ内
電話：06-6941-0351 FAX：06-6944-6796

